

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	鍼灸スポーツ学科		科 目 区 分	その他	授業の方法	実習
科 目 名	トレーナー実習Ⅱ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時間	後期	教室名	501教室、実技室
担 当 教 員	山下 浩平	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
スポーツ現場などでの実習を通じ、学習してきた内容の活用法を学び、アスレティックトレーナーとしての職業訓練とする。						
《成績評価の方法と基準》						
1. 実習報告書およびカンファレンス 50% 2. プレゼンテーション 50%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
公認アスレティックトレーナー 専門科目テキスト 全巻 その他各種AT関連図書 はりきゆう理論 第3版/医道の日本社						
《授業外における学習方法》						
実習に対する準備、実習期間中の問題考察、実習後の報告準備など						
《履修に当たっての留意点》						
アスレティックトレーナーとしてのスキル修得のみならず、選手および関連スタッフとの適切な関係作り、実習生同士の組織運営など、授業では学べない、トレーナーとしての支質を高めることを意識すること。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	授業を通じての到達目標	スポーツ現場でのトレーナー業務の中で、メディカルチェックや傷害発生時、またリハビリテーションプログラム作成のために行うべき評価と、その結果を受けて問題解決のためのプログラム作成が可能になることに主題に置き実習する。		トレーナーキットなど 評価やリハビリに必要な機材 各種教科書及び参考図書	実習前学習 実習報告書作成	
	各コマにおける授業予定	検査・測定と評価、アスレティックリハビリテーションプログラム作成 実習				
第2回	授業を通じての到達目標	スポーツ現場でのトレーナー業務の中で、メディカルチェックや傷害発生時、またリハビリテーションプログラム作成のために行うべき評価と、その結果を受けて問題解決のためのプログラム作成が可能になることに主題に置き実習する。		トレーナーキットなど 評価やリハビリに必要な機材 各種教科書及び参考図書	実習前学習 実習報告書作成	
	各コマにおける授業予定	検査・測定と評価、アスレティックリハビリテーションプログラム作成 実習				
第3回	授業を通じての到達目標	スポーツ現場でのトレーナー業務の中で、メディカルチェックや傷害発生時、またリハビリテーションプログラム作成のために行うべき評価と、その結果を受けて問題解決のためのプログラム作成が可能になることに主題に置き実習する。		トレーナーキットなど 評価やリハビリに必要な機材 各種教科書及び参考図書	実習前学習 実習報告書作成	
	各コマにおける授業予定	検査・測定と評価、アスレティックリハビリテーションプログラム作成 実習				
第4回	授業を通じての到達目標	スポーツ現場でのトレーナー業務の中で、メディカルチェックや傷害発生時、またリハビリテーションプログラム作成のために行うべき評価と、その結果を受けて問題解決のためのプログラム作成が可能になることに主題に置き実習する。		トレーナーキットなど 評価やリハビリに必要な機材 各種教科書及び参考図書	実習前学習 実習報告書作成	
	各コマにおける授業予定	検査・測定と評価、アスレティックリハビリテーションプログラム作成 実習				
第5回	授業を通じての到達目標	スポーツ現場でのトレーナー業務の中で、メディカルチェックや傷害発生時、またリハビリテーションプログラム作成のために行うべき評価と、その結果を受けて問題解決のためのプログラム作成が可能になることに主題に置き実習する。		トレーナーキットなど 評価やリハビリに必要な機材 各種教科書及び参考図書	実習前学習 実習報告書作成	
	各コマにおける授業予定	検査・測定と評価、アスレティックリハビリテーションプログラム作成 実習				

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	鍼灸スポーツ学科		科 目 区 分	その他	授業の方法	実習
科 目 名	トレーナー実習Ⅱ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時限	後期	教室名	501教室、実技室
担 当 教 員	山下 浩平	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
スポーツ現場などでの実習を通じ、学習してきた内容の活用法を学び、アスレティックトレーナーとしての職業訓練とする。						
《成績評価の方法と基準》						
1. 実習報告書およびカンファレンス 50% 2. プレゼンテーション 50%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
公認アスレティックトレーナー 専門科目テキスト 全巻 その他各種AT関連図書 はりきゅう理論 第3版/医道の日本社						
《授業外における学習方法》						
実習に対する準備、実習期間中の問題考察、実習後の報告準備など						
《履修に当たっての留意点》						
アスレティックトレーナーとしてのスキル修得のみならず、選手および関連スタッフとの適切な関係作り、実習生同士の組織運営など、授業では学べない、トレーナーとしての支質を高めることを意識すること。						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第 16 回	実習 形式	授業を 通じての 到達目標	スポーツ現場でのトレーナー業務の中で、メディカルチェックや傷害発生時、またリハビリテーションプログラム作成のために行うべき評価と、その結果を受けて問題解決のためのプログラム作成が可能になることに主題に置き実習する。	トレーナーキットなど 評価やリハビリに 必要な機材 各種教科書及び 参考図書	実習前学習 実習報告書作成	
		各コマ における 授業予定	検査・測定と評価、アスレティックリハビリテーションプログラム作成実習			
第 17 回	実習 形式	授業を 通じての 到達目標	スポーツ現場でのトレーナー業務の中で、メディカルチェックや傷害発生時、またリハビリテーションプログラム作成のために行うべき評価と、その結果を受けて問題解決のためのプログラム作成が可能になることに主題に置き実習する。	トレーナーキットなど 評価やリハビリに 必要な機材 各種教科書及び 参考図書	実習前学習 実習報告書作成	
		各コマ における 授業予定	検査・測定と評価、アスレティックリハビリテーションプログラム作成実習			
第 18 回	実習 形式	授業を 通じての 到達目標	スポーツ現場でのトレーナー業務の中で、メディカルチェックや傷害発生時、またリハビリテーションプログラム作成のために行うべき評価と、その結果を受けて問題解決のためのプログラム作成が可能になることに主題に置き実習する。	トレーナーキットなど 評価やリハビリに 必要な機材 各種教科書及び 参考図書	実習前学習 実習報告書作成	
		各コマ における 授業予定	検査・測定と評価、アスレティックリハビリテーションプログラム作成実習			
第 19 回	実習 形式	授業を 通じての 到達目標	スポーツ現場でのトレーナー業務の中で、メディカルチェックや傷害発生時、またリハビリテーションプログラム作成のために行うべき評価と、その結果を受けて問題解決のためのプログラム作成が可能になることに主題に置き実習する。	トレーナーキットなど 評価やリハビリに 必要な機材 各種教科書及び 参考図書	実習前学習 実習報告書作成	
		各コマ における 授業予定	検査・測定と評価、アスレティックリハビリテーションプログラム作成実習			
第 20 回	実習 形式	授業を 通じての 到達目標	スポーツ現場でのトレーナー業務の中で、メディカルチェックや傷害発生時、またリハビリテーションプログラム作成のために行うべき評価と、その結果を受けて問題解決のためのプログラム作成が可能になることに主題に置き実習する。	トレーナーキットなど 評価やリハビリに 必要な機材 各種教科書及び 参考図書	実習前学習 実習報告書作成	
		各コマ における 授業予定	検査・測定と評価、アスレティックリハビリテーションプログラム作成実習			

